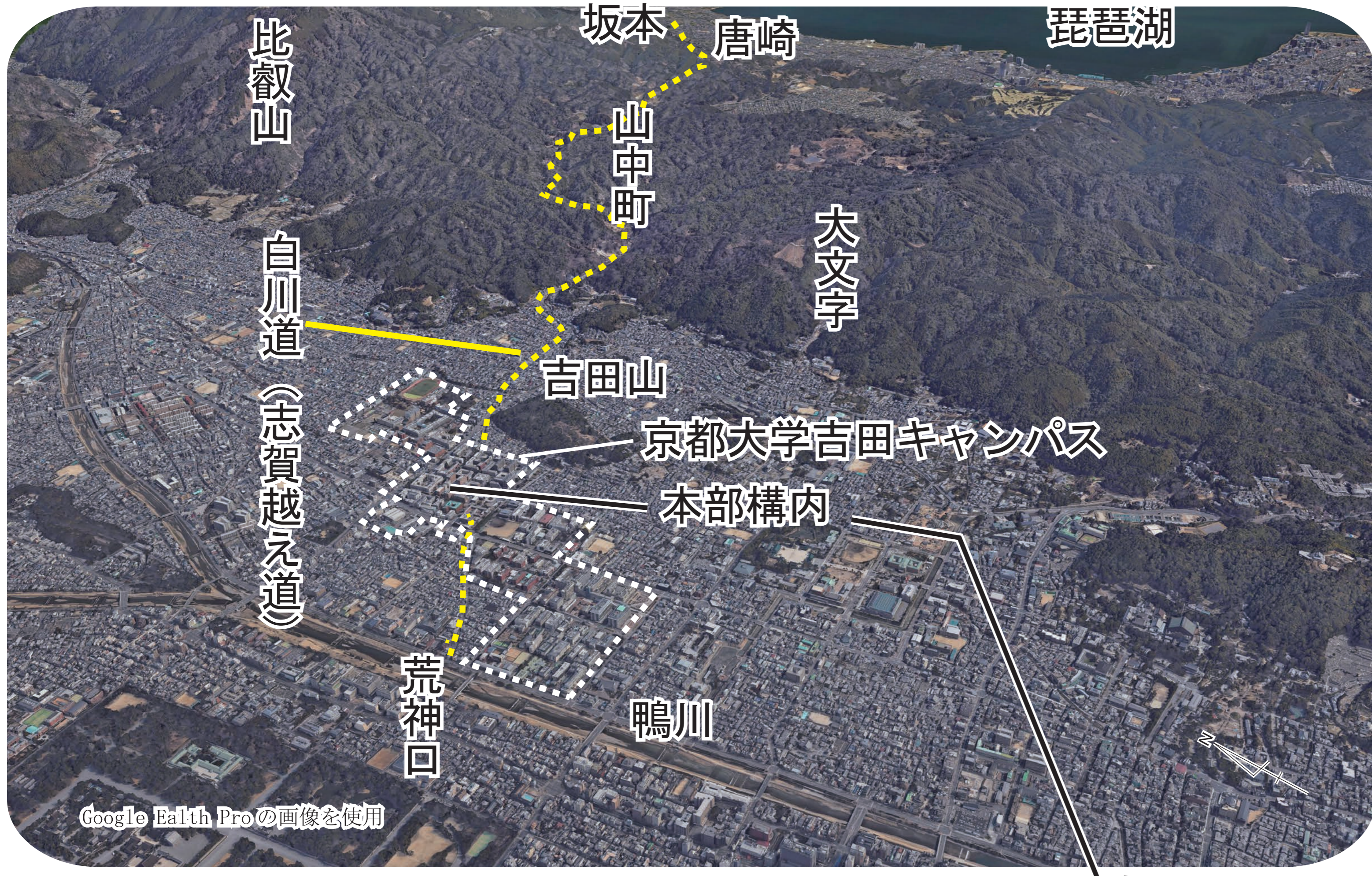


埋もれた古道を探る - 京と近江を結んだ「白川道」の調査

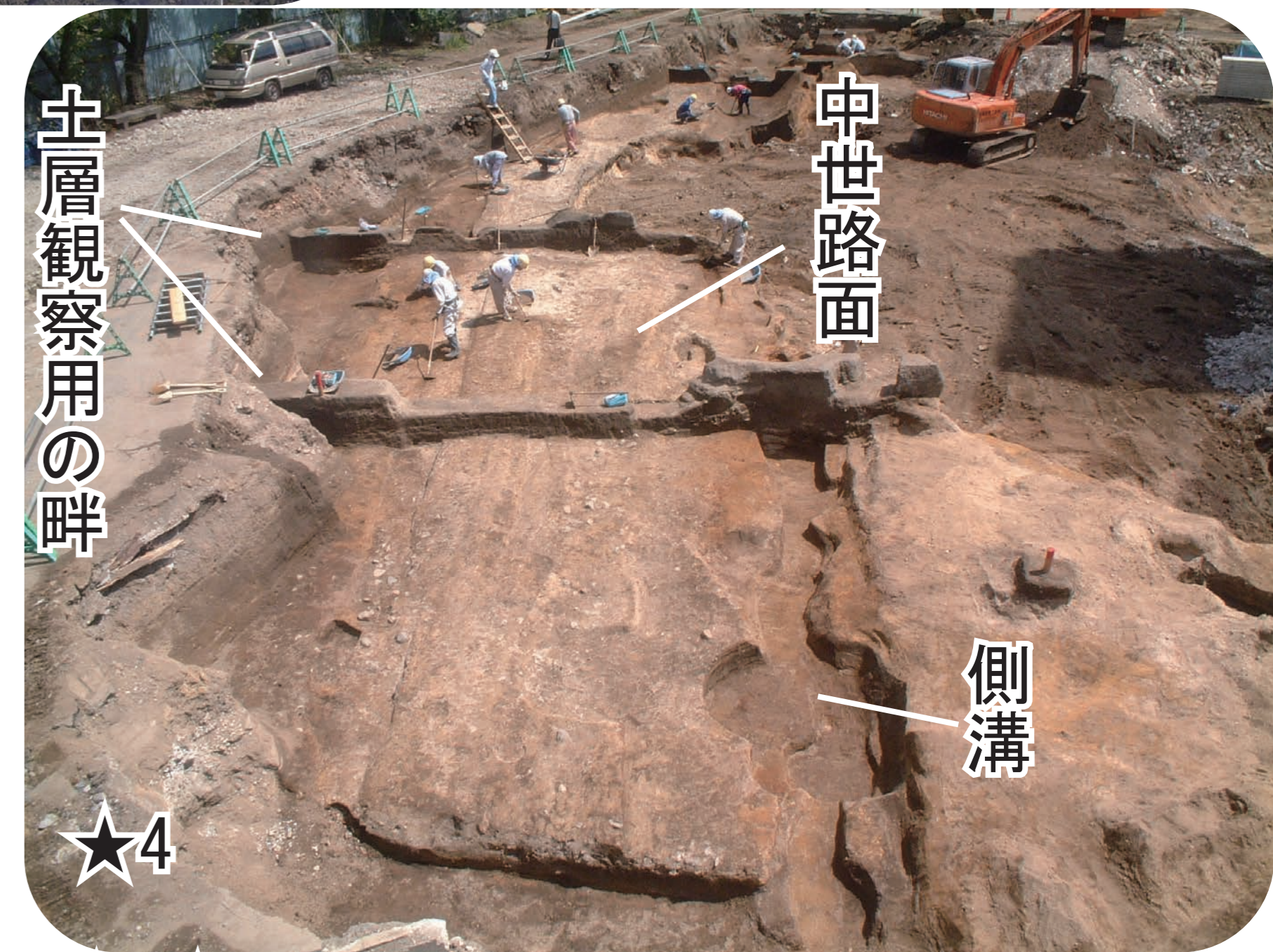


京大本部構内には、現在「志賀越え道」や「山中越え」などと呼ばれている、京の荒神口と近江とを結ぶ交通路「白川道」がはしっていました。幕末に尾張藩邸が設けられたことで途絶し、そのまま大学の敷地となりましたが、キャンパスの地下には、最も古いものは今から900年あまり前の平安時代後期までさかのぼって、各時代の道路の遺構がいまも良好に残されています。

◆東一条交差点東北角の江戸時代道標
(京都市登録史跡)
「左百まんへん」
「右さかもと からさき 白川」



*時期によって道筋が微妙に異なる白川道。今後はレーダー探査や試掘調査によっても位置の把握を計画しています。



★2★4 中世の路面と側溝 (上下とも)
*中世の路面に深い轍はみられず、幅3~4mを砂利で叩き締めて舗装しています。

★3 近世の路面と並行する野壺群
*近世の路面に並行して径1mほどの円形の穴が密集しています。肥料とする糞尿を貯めた野壺(肥だめ)の跡であり、都市近郊農村となったこの地域を象徴する景観といえます。



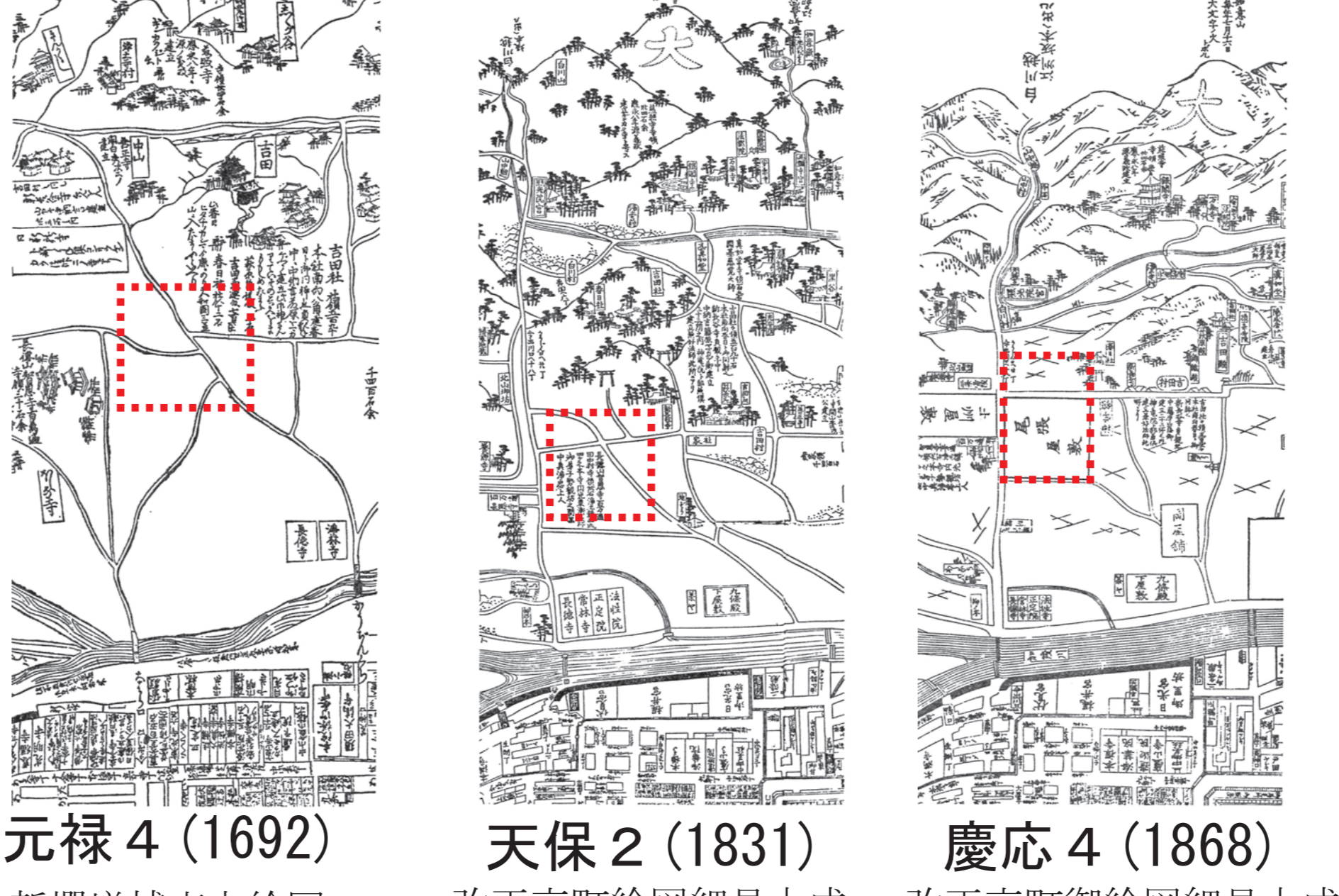
参考画像：近江坂本の馬借

『石山寺縁起絵巻』(鎌倉時代)より 画像出典は 東京国立博物館研究情報アーカイブス <https://webarchives.tnm.jp/>

*白川道は、琵琶湖の湖上輸送で坂本に陸揚げされた物資の重要な搬路でした。それを担った「馬借」「車借」と呼ばれる運送業者たちの人馬が、頻繁に通行したのでしょうか。

わたしたちは、発掘調査などで「白川道」を記録し、歴史資料として後世に伝えるだけでなく、キャンパスのある鴨東地域が道とともに都市近郊として重ねてきた歴史を復元し、その特質を検討するプロジェクトを進めています。

<近世絵図に描かれた白川道>



*本部構内のおおよその想定位置(.....)を加筆

キャンパス地下の歴史遺産 – これまでのおもな発掘調査成果から

京大は遺跡の上にある大学です。吉田キャンパス全域で工事に先立つ遺跡調査を実施し、40年余を経ました。縄文時代のはじめから大学設置に至るまでの資料の蓄積は、研究や教育の重要な学術資源であるだけでなく、地域にとっても貴重な歴史遺産となっています。



●1 縄文後期配石・甕棺墓地（4000年前頃）
植物園内において移築復元



●4 幕末期尾張藩邸関連遺構



●5 同上 藩邸堀東南角部分
(4・5 いずれも 150年前頃)



●9 鎌倉時代吉田泉殿建物跡
(800年前頃) 現地に埋め戻し保存



●2 鎌倉時代火葬塚
(800年前頃)
現地に埋め戻し保存復元



●3 幕末期土佐藩邸南堀
(150年前頃)



●10 鎌倉～室町時代井戸
(700年前頃)



●7 平安時代梵鐘鑄遺構（1000年前頃）
現地に埋め戻し保存・模型設置



●6 弥生前期水田遺構（2400年前頃）



●12 平安時代青銅製火舎香炉（850年前頃）



●11 江戸時代乾山焼聖護院窯関連資料
(300年前頃)



●8 吉田二本松古墳群出土埴輪（1550年前頃）
調査地校舎（吉田国際交流会館）に遺物展示



★資料展示室・尊攘堂（国登録文化財）
※現在改修工事中です

わたしたちは、学びの空間であるキャンパスの地下に眠るこうした多くの歴史遺産の探究と活用を通じて、大学と地域のこれまでとこれからを考えることができるような、有意な架け橋を構築していくことを目指しています。